



さいたま市立美園小学校



開校15年 記念対談

開校15年を迎えた美園小学校。今回は開校時の初代校長の川本先生と、現校長の河野先生に、美園小学校の歩みや未来への思いを語っていただきました。

完全版



笑 顔かがやく きれいな学校 に込めた思い

——開校当時のお話を聞かせてください。

川本先生：

開校したばかりの校舎を見た時、この環境をできるだけ長く大切にしたいと思いました。

新車を買うと大切に扱いますよね。傷がつくと残念な気持ちになる。それと同じで、子どもたちにも学校を大切に思う気持ちを育んでほしいと考えました。

学校がきれいであることは、子どもたちの意欲や笑顔にもつながります。

また、学校目標は子どもたちが覚えやすいことも大切だと思い、一言で伝わる形にしました。



開校式では、「金色の鍵」が初代校長先生へ手渡されました。この鍵には、新しい学校の扉を開き、子どもたちの成長を見守っていくという想いが込められています。

そして15年の時を経た今、当時その鍵を受け取った初代校長先生が、再びその鍵を手に取りました。

開校当時はまだ何もなかった校舎に、今ではたくさんの子どもの笑顔や思い出が積み重なっています。15年間の歩みを振り返るとともに、美園小学校が多くの人々に支えられながら成長してきたことを改めて感じることができました。

開校時の想いは、時代が変わっても受け継がれ、これから先も子どもたちとともに未来へとつながっていきます。

初代校長先生がご来校された際、かつての教え子である教育実習生4人との再会が実現しました。

開校当初を知る初代校長先生と、美園小学校で学び成長した卒業生が再び母校で出会う姿からは、学校の歴史とつながりの深さを感じることができました。

緑区かかしランド3年連続入賞



銅賞受賞の「緑ロード クリテ君」



「MISOKORI.K」

子どもたちの挑戦する力は
今も変わらない

——15年経った今も変わらないと
感じることはありますか。

川本先生：

子どもたちの意欲ですね。
青少年の主張や緑のカーテンコン
テストなど、さまざまな活動に積
極的に挑戦していました。緑のカー
テンでは、最初に入賞できません
でしたが、先生方と子どもたちが
工夫を重ね、ついには最優秀賞
を獲得しました。緑区のコンテス
トでも「みそトロ」などの作品が
評価されました。子どもたちの頑
張りを、先生方が本気で応援す
る。そんな校風がありました。

河野校長先生：

今もその雰囲気は受け継がれてい
ると思います。運動会や委員会活
動、さまざまな学習活動を見てい
ても、仲間と協力しながら主体的
に取り組む姿が見られます。



赤城少年自然の教室(野外炊飯)



校舎に込められた設計者の思い

川本先生：

美園小学校の校舎は、敷地に対して斜めに配置されています。

普通は敷地に沿って建てることが多いのですが、周辺住宅への圧迫感を軽減したり、東側の自然景観を取り込んだりするために、この配置になっています。

また、校庭の砂ぼこりが住宅地へ流れにくいようにという配慮もあったそうです。

さらに、正門から校舎を見ると奥へ向かって少しずつ高くなっています。

これは子どもたちが登校する際に、「今日も頑張ろう」という気持ちが高まるような効果を意識して設計されたと聞いています。

河野校長先生：

毎日見ている校舎ですが、今回改めてお話を伺って、その思いの深さに驚きました。改めて学校を見直したくなりましたね。



【みんなの作品や思い出が集まる多目的スペース】
2階から4階の校舎中央には、多目的スペースが設けられています。可動式の間仕切りを活用することで、児童の作品展示など、さまざまな用途で利用されています。

開校以来、子どもたちの学びや成長を発信する場として活用されてきました。開校10年記念で作成されたクラス写真も、この場所で一定期間展示され、多くの児童が足を止めて振り返っていました。

日々の学習成果を共有するだけでなく、学校の思い出や歩みをつなぐ空間として、多目的スペースはこれからも子どもたちを見守り続けていきます。



防 災拠点としての美園小学校



川本先生：

美園小学校は単なる学校ではなく、地域の避難所としての機能も考えて設計されています。体育館には避難所として活用できる設備がありますし、給食室では炊き出しも可能です。

また、プールの水を浄化して活用できる仕組みも整えられています。災害時には地域の皆さんを支える拠点になることも想定されているんです。

河野校長先生：

私たちも避難所開設訓練などを通して、防災意識を高めています。普段子どもたちが学んでいる学校が、いざという時には地域を支える場所になる。それも美園小学校の大切な役割だと思います。

体育館には、更衣室内にシャワー設備を設置。車いす利用者など、誰もが利用しやすいバリアフリー対応となっています。また、障害のある方や乳幼児連れの方にも配慮したトイレも整備されています。子どもたちの学びの場であると同時に、地域を支える防災拠点としての役割も担っています。



開校当時、北門の外から見た校舎



地域とともに歩む学校

——地域とのつながりについてはいかがでしょう。

河野校長先生：

美園小学校の大きな強みですね。
学校運営協議会やPTA、地域の皆様のご協力のおかげで、多くの活動が成り立っています。今年の美化活動では200名を超える方々が参加してくださいました。
子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々も一緒に学校を支えてくださっています。

川本先生：

開校当時から地域とともに歩む学校を目指してきました。そのつながりが今も続いていることを、本当にうれしく思います。

未来の子どもたちへ

——最後に未来へのメッセージをお願いします。

川本先生：

日本語の美しさを大切にしてほしいですね。
そして、自分で善悪を判断できる力を身につけてほしいと思います。
便利な時代だからこそ、自分の頭で考え、自分で判断することが大切になります。

河野校長先生：

これからの時代はAIがさらに発展していくと思います。だからこそ、AIに使われるのではなく、自分で考え、AIを活用できる力が必要になります。
本校で大切にしている「おかげさま」「お互いさま」の気持ちを忘れず、人とのつながりを大切にしながら成長してほしいと思います。